

◇「論考」タイトル一覧表 1～88

	タイトル（論考名）	掲載誌	発表年月	該当ページ（数）	共著者
88	15-03「市民意識の多様・多元性に基づく類型化のための調査研究－多変量解析による世代間・世代内差異の分析を通じて－」『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会・自然科学篇）第65号』		2015年3月予定	共著者 田原歩	
87	14-11「推計人口が描く人口減少社会の再定義と生涯学習・教育課題」『日本生涯教育学会年報』		第35号 2014年11月	pp. 137～149	
86	13-12「日韓両國의 少子・高齢・人口減少의 現状과 社會科教育의 課題」『社會科教育』		第52巻3号 韓國社會科教育研究學會 2013年12月	pp.1～21	共著者 李明熙
85	13-03「原点から問い直す生活科の未来（1）」『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会・自然科学篇）』		第64号 2013年3月	pp. 15～46	
84	13-03「原点から問い直す生活科の未来（2）」『静岡大学教育学部研究報告（教科教育学篇）』		第45号 2013年3月	pp. 27～54	
83	13-03「アジア的シチズンシップ教育のために 2-1」『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会・自然科学篇）』		第63号 2013年3月	pp. 15～42	
82	13-03「アジア的シチズンシップ教育のために 2-2」『静岡大学教育学部研究報告（教科教育学篇）』		第44号 2013年3月	pp. 27～54	
81	12-08「子どもの遊びを大切にする－遊びの条件の再構築」『児童心理臨時増刊』		No.954 金子書房 2012年8月	pp. 79～82	
80	12-03「アジア的シチズンシップ教育のために」『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会・自然科学篇）』		第62号 2012年3月	pp. 1～24	
79	11-07「韓国の教育事情」『子ども社会学研究 17号』		日本子ども社会学会編 2011年7月	pp. 143～169	
78	11-03「学力問題再考－秋田と沖縄の比較を通して－」『静岡大学教育学部研究報告（教科教育学篇）』		第42号 2011年3月	pp. 13～42	
77	10-03「韓国における日本大衆文化の調査研究（10）」『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会・自然科学篇）』		第61号 2010年3月	pp. 17～48	共著者 夫伯他4名
76	10-01「子どもの憧れの人気アニメの主人公」『児童心理臨時増刊』		No.907 金子書房 2010年1月	pp. 68～73	
75	09-03「韓國中・高生의 規範意識의 特性과 韓・日相互理解教育의 課題」『韓國日本教育學研究』		Vol.14, No.2, 2009年3月	pp. 39～59	
74	08-06「親のところがわからない－教師と親の思いのズレを活かす処方を」『児童心理』		No.897 金子書房 2008年6月	pp. 12～201	
73	08-03「日韓両国の少子・高齢化の進行に伴う社会システム再構築への課題」『静岡大学研究報告（教科教育学篇）』		第39号 2008年3月	pp. 33～68	
72	08-03「少子社会における育児支援の課題沖縄県内自治体を事例に(2)」『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』		第58号 2008年3月	pp. 29～57	共著者 与那嶺涼子

71	07-03「少子社会における育児支援の課題—沖縄県内自治体を事例に—」『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』第56号 2007年3月 pp. 33～66 共著者 与那嶺涼子
70	06-10「人口減少社会における生涯学習推進の可能性」『日本生涯教育学会年報』第27号 2006年10月 pp. 125～134
69	06-03「韓国における日本大衆文化の調査研究（9）」『静岡大学教育学部研究報（人文・社会科学篇）』第56号 2006年3月 pp. 1～26 共著者 夫伯他3名
68	06-03「学校の生活時間を見直す」『児童心理』No.838 金子書房 2006年3月 pp.26～31
67	05-03～06-03「アジア的シチズンシップ—道德教育の再構築」No.1～12 『学校マネジメント』No.572～583 明治図書 2005年4月号～2006年3月 24頁
66	05-03「韓国における日本大衆文化の調査研究（8）—中高校生の親子・友人関係についての意識調査にみる少子社会の特徴と教育課題—」『静岡大学教育学部研究報（人文・社会科学篇）』第55号 2005年3月 pp. 17～48 共著者 夫伯他3名
65	05-03「日韓社会科比較考（5）—韓国中高校生の日本と日本文化への意識・行動の特徴と相互理解教育の課題」『静岡大学研究報告（教科教育学篇）』第36号 2005年3月 pp. 67～88 共著者 夫伯他3名
64	04-04「不安の現在を希望の未来に—少子高齢社会を拓く鍵」『世界と議会』第479号 尾崎行雄記念財団 2004年4月 pp. 8～14
63	04-03「韓国の統合教科『賢い生活』の特徴」『静岡大学教育学部研究報告（教科教育学篇）』第35号 2004年3月 pp. 37～60
62	04-03「韓国における日本大衆文化の調査研究（7）」『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』第54号 2004年3月 pp. 73～137 共著者 夫伯
61	04-2「子育てが不安になる時代背景」『児童心理』No.801 金子書房 2004年2月 pp. 35～41
60	04-2「韓国」『生活のカリキュラムの改善に関する研究—諸外国の動向—』国立教育政策研究所 2004年2月 pp. 79～101（未収録）
59	04-01「学校マニフェストづくり—学校選択時代を生き抜く提案—」『学校運営研究』No.557 明治図書 2004年1月 pp. 7～12
58	03-03「韓国における日本大衆文化の調査研究（6）」『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』第53号 2003年3月 pp. 13～83 共著者 夫伯
57	03-03「青少年の規範意識に関する調査研究」『静岡大学教育学部研究報（人文・社会科学篇）』第53号 2003年3月 pp. 11～31 共著者 松永由彌子他2名
56	02-11「親が親になりきれない背景—少子化、高学歴化、産業化の落とし穴」『児童心理』No.777 金子書房 2002年11月 pp. 11～16
55	02-10「青少年における大衆文化の役割—韓日共同文化構築の視点から—」『동아시아일본학회』『동아시아일본학회 2002年度秋季國際學術大會—요지집—』2002年10月 pp. 53～67（未収録）
54	02-07「子どもをめぐる保護者の規範意識の特性と課題」『日本生涯教育学会論集 23』 2002年7月 pp. 101～112 共著者 松永由弥子
53	02-05「育児不安とは何か—その定義と背景—家族社会学の立場から」『こころの科学 103』 日本評論社 2002年5月 pp. 16～28

52	02-03「韓国における日本大衆文化の調査研究（5）」『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』第52号 2002年3月 pp. 19～47 共著者 夫伯
51	01-03「韓国における日本大衆文化の調査研究（4）」『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』第51号 2001年3月 pp. 33～94 共著者 夫伯
50	01-02「高齢化の進行に対応した学校と教師の新たな在り方を求めて」『教育じほう 特集 生きる力と体力』No.637 東京都新教育研究会 2001年2月 pp. 64～67
49	00-10「韓国青少年における日本大衆文化の接触状況にみる受容論議の問題性と課題」『日本文化研究』第4集 韓国日本学協会 2000年10月 pp. 62～82
48	00-03「高齢化の進行に適合する新たな教師の在り方を求めて」『教育展望 特集「学ぶ力」をはぐくむ』第46巻第2号 教育調査研究所 2000年3月 pp. 44～52
47	00-03「韓国における日本大衆文化の調査研究（3）」『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』第50号 2000年3月 pp. 35～94 共著者 夫伯他4名
46	99-06「自ら学び自ら考える力を育てる社会科の指導」『中等教育資料』No.735 1999年6月 pp. 16～21
45	99-03「韓国における日本大衆文化の調査研究（2）」『静岡産業大学国際情報学部研究紀要』第1号 1999年3月 pp. 35～70 共著者 夫伯他6名
44	99-03「韓国における日本大衆文化の調査研究（1）」『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』第49号 1999年3月 pp. 35～70 共著者 夫伯他6名
43	99-11「本書の編集とアンケート調査の分析を依頼されて」『1946.4.10. 初の婦人参政権行使と日本女性自立への出発 市川房江基金受賞記念出版』共同研究 一冊の会 法女性学サロン読み合わせ分校 1999年11月 pp. 340～357
42	99-10「高学歴・少子時代の母親のアイデンティティ」『母親の悩みとあせり 児童心理臨時増刊』No.722 金子書房 1999年10月 pp. 26～34
41	07-08「『規制緩和の推進に関する意見』を読む」『学校経営』第42巻第9号 第一法規 1997年8月 pp. 6～18
40	97-07「マンガが育てる“根性”」『やり抜く力を育てる 児童心理』No.680 金子書房 1997年7月 pp. 35～40
39	97-04～98-03「連載 アジアをどう教えるか 1～12」『現代教育科学』明治図書 1997年4月～1998年3月 総頁数72頁
38	97-03「韓国／教育課程 2000 総論試案の特性と課題」『社会科教育研究 1997 年度年報 日本社会科教育学会編集 1997年3月 pp. 33～37
37	97-03「日韓社会科教育比較考（3）」『静岡大学教育学部研究報告（教科教育学篇）』第28号 1997年3月 pp. 31～56
36	96-08「韓国の教科書に見る『自国史』の扱い方」『社会科教育』No.427 明治図書 1996年8月 pp. 15～19
35	96-08「改めて生活科の地域での活動の価値を問いなおす」『初等理科教育』 1996年8月 初教出版 pp. 70～71

34	96-03「日本における公民教育の成立と展開－日韓社会科教育比較考（2）」『静岡大学教育学部研究報告（教科教育学篇）』第27号 1996年3月 pp. 11～32
33	95-10「家庭や地域との連携 どんな方法があるか 中教審答申と一歩先の学校づくりの検討課題」『学校運営研究』No.441 明治図書 1995年10月 pp. 18～23
32	95-10「共感と交感の帯の創造を求めて－日韓青少年社会意識比較調査をてがかりに－」『青少年問題』第42巻10号 青少年問題研究会 1995年10月 pp. 4～11
31	95-03「『太平洋戦争』の記述対比－書き手によってここまで違う？（メディアリテラシーの必要性を考える）」『社会科教育』No.403 明治図書 1995年3月 pp. 57～63
30	94-09「子どもの社会観形成とオモテ文化とラ文化」『社会科教育』No.395 明治図書 1994年9月 pp. 87～91
29	94-09「社会の少子化と学校再編成の課題」『学校運営研究』No.425 明治図書 1994年9月 pp. 110～115
28	94-03「日韓社会科教育比較考（その1）」『静岡大学教育学部研究報告（教科教育学篇）』第26号 1994年3月 pp. 23～48
27	94-03「日本と韓国における学校と教室文化の比較研究（1）」『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』第44号 1994年3月 pp. 20～27 共著者 曹永達夫伯
26	93-11「今、子どもにとって先生とは」『教育じほう』No.550 東京都新教育研究会 1993年11月 pp. 20～27
25	93-05「日本と韓国における青少年文化と意識構造の比較研究(1)－新たな両国の相互理解教育の基礎的作業として」『静岡学園短期大学研究報告』第5号 1993年5月 pp.237～254 共著者 夫伯
24	93-02「生活科における遊び」『児童心理』Vol.47,2 金子書房 1993年2月 pp.87～92
23	92-04～93-03「連載 なぜなぜもてる マンガ考現学 1～11」『授業研究』No.382～384 No.386～395 明治図書 1992年4月～5月、7月～1993年3月 総頁数 33頁
22	92-03「地域の中で育つ子ども達と家庭」『研究紀要』第21号 日本教材文化研究財団 1992年3月 pp. 36～41
21	91-12「“生活者”にとっての“意味”と“思い”からの再構成を－新たな“人（あいだ）づくりのために－（「連載講座・社会がわかるとは何か－脱イデオロギー時代の次に来るもの」（9）」『教育科学 社会科教育』No.358 明治図書 1991年12月 pp. 119～124
20	91-08「漫画の教育的価値とその可能性」『教育相談研究』第64号 教育相談研究所編 実務教育出版 1991年8月 pp. 28～31
19	91-03「生活科教育の研究・教育・連携の課題－生涯教育・学習論の視点から－」『教科教育学研究』第9集 日本教育大学協会第二常設委員会編 1991年3月 pp. 111～148
18	90-04～91-03「連載 初任研成功へのキーワード 1～12」『学校運営研究』No.367～379 明治図書 1990年4月～1991年3月 総頁数 72頁
17	90-04「新教科『生活科』をめぐる論争点」『現代教育科学』No.401 明治図書 1990年4月 pp. 76～81（未収録）
16	90-03「社会科教育変遷過程の研究（3）」『静岡大学教育学部研究報告（教科教育学篇）』第21号 1990年3月 pp. 1～16

15	90-03「地域生涯学習計画についての覚書」『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』第40号 1990年3月 pp. 21～37
14	89-11「学習行動による住民類型とその意識特性にみる地域生涯教育計画の課題－静岡県小笠郡浜岡町での学習意識・行動調査をもとに」『日本生涯教育学会年報』第10号 日本生涯教育学会編 1989年11月 pp. 199～219 共著者 角替弘志
13	89-08「雑誌文献にみる『生活科論』のトレンド分析」『授業研究臨増刊「生活科の授をどうつくるか」No.342 明治図書 1989年8月 pp. 240～269
12	89-07「地域における学校の役割と課題」『社会教育』第44巻第7号 社会教育連合会編 1989年7月 pp. 5～10
11	89-03「成人の学習行動の分析に関する基礎的研究（Ⅲ）－浜岡町における成人の学習意識・行動調査を中心として－」『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』第39号 1989年3月 pp. 199～219 共著者 角替弘志 渡辺治彦
10	88-03「生涯教育の視点からのカリキュラムの構想」『社会科教育の理論と実践』（教員養成大学・学部教官研究集会社会科教育部会編）東洋館出版社 1988年3月 pp.96～101
9	88-03「社会科教育変遷過程の研究（2）－社会科論の構造－」『静岡大学教育学部研究報告（教科教育学篇）』第18号 1988年3月 pp. 1～16
8	87-03「成人の学習行動の分析に関する基礎的研究（Ⅱ）－土肥町における社会教育調査を中心として－」『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』第37号 1987年3月 pp. 195～210 共著者 角替弘志
7	85-03「大学における社会科教育についての一試論」『教科教育学研究』（日本教育大学協会研究促進委員会編）第3集 1985年3月 pp. 33～51
6	84-03「成人の学習行動の分析に関する基礎的研究（Ⅰ）－御殿場市における生涯教育調査中心として－」『静岡大学教育学部研究報告（教科教育学篇）』第15号 1984年3月 pp. 167～180 共著者 角替弘志
5	83-03「社会科教育変遷過程の研究（1）－観点の提示－」『静岡大学教育学部研究報告（教科教育学篇）』第14号 1983年3月 pp. 33～46
4	82-03「『知識社会学』再考（1）」『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』第22号 1982年3月 pp. 1～17
3	75-10「K.マンハイムの『知識人論』再考－現代教育の再生のために」『教育社会学研究』第30集（日本教育社会学会編） 1975年10月 pp. 129～141
2	79-01「『知識の社会学』としての『教育社会学』のために(1)－予備的考察－」『教育学研究集録』（筑波大学教育学研究科編）第2集 1979年1月 pp. 57～65
1	76-12「M.ウェーバーとK.マンハイムにおける『Wertfreiheit』の問題についての一考察－新たな教育研究の序として－」『教育学研究集録』（東京教育大学大学院教育学研究科編）第16週 1976年12月 pp. 1～7